

Ⅲ. 乳汁分泌確立に及ぼす母体環境因子の影響に関する研究

分担研究報告書

東京大学

水野正彦

母乳哺育を推進普及する目的のために母乳分泌に関連すると推定される産科的諸因子、各種内分泌疾患および新生児側の諸要因などを取り上げ、母乳分泌との関連性を検討した。

本年度の研究により乳汁分泌と密接に関連する諸因子が明白となり、今後の母乳指導と資すべき多くの新知見が得られた。

A. 産科的諸因子と母乳分泌に関する研究

昨年度に作成した母乳調査表を利用して、産科的諸因子と乳汁分泌との関連を統計的に分析し以下の結果を得た。

(i) 経産回数

産褥3,4日目の乳汁量は経産婦の方が多かったが、5日目には初産婦との間の差異は認められなくなった。

(ii) 母体年齢

初産、経産婦とも高齢になる程乳汁量は低下し、特に30才以上になると有意な低下をみた。高齢な程帝切率が高まるが、経産例に限っても年齢と乳汁量は逆相関した。

(iii) 体重

初産婦では非妊時に肥満があると乳汁量は低下した。また妊娠中の体重増加が12Kg以上になると、特に経産婦で乳汁量の低下がみられた。

(iv) 分娩時間

分娩時間と乳汁量との間には一定の傾向はみられなかった。

(v) 分娩時出血量

500ml未満と500ml以上の間に乳汁量の差はみられなかった。

(vi) 分娩様式

鉗子・吸引分娩は正常分娩例とほぼ同程度の乳汁量が得られたが、帝切例では低下していた。

(vii) 薬剤投与

陣痛の誘発または促進の目的でプロスタグランジンやオキシトシンを使用しても乳汁量の変化はみられなかった。

(viii) 妊娠中毒症

産褥5日目まで妊娠中毒症例では乳汁量の低下があり特に、経産婦では有意差を認めた。

(イ) 乳頭の状態

扁平、陥没乳頭などの乳頭の異常があると乳汁量が低下した。

B. 内分泌疾患と母乳の関連に関する研究

内分泌疾患として、昨年度は、prolactinomaの症例について治療法と乳汁分泌の良否とに関し調査した。今年度は、prolactin関連疾患以外の内分泌疾患と乳汁分泌との関連について検討を加えた。さらにprolactinomaの症例に関しては、産褥期の血中PRL値の変化、性機能の回復状態、あるいは授乳様式と腫瘍径の変化との関連について分析した。

(1) prolactinomaの妊娠分娩症例における産褥乳汁分泌と月経周期の回復

(i) 授乳様式と分娩後のPRL値

妊娠前のPRL値と授乳様式との関連は認められなかった。また産褥5～7日目と1か月のPRL値と授乳様式との間にも一定の傾向はみられなかった。

(ii) 授乳様式と月経周期の回復

全体として60%に分娩後平均11.6±2.6月で、月経が再開したが授乳様式との関連性はみられなかった。

(iii) 授乳様式と腫瘍径の変化

分娩後の腫瘍径の増大、不変、縮少は各々23%、23%、54%であったが、授乳様式との関連性は否定的であった。

(iv) 月経の再開とPRL値、腫瘍径の変化

月経の再開の有無と産褥1か月までのPRL値との相関性はみられなかったが腫瘍径は縮少した例が多くみられた。

(2) 各種内分泌疾患における産褥乳汁分泌の実態

(i) 甲状腺機能亢進症：全体として乳汁量は低下していたが特に、妊娠を契機として治療を中止した症例に乳汁量の低下が著明であった。

(ii) 甲状腺機能低下および慢性甲状腺炎

妊娠中にも治療を要した例での乳汁量は対照群よりもむしろ良好であった。

(iii) 糖尿病および糖尿病境界型

全体的に乳汁分泌は不良であったが特にinsulin使用群ではその傾向が著しかった。

(iv) 排卵障害

一般的に乳汁分泌は不良傾向であったが、稀発月経例では逆に乳汁量は増加していた。

(v) ステロイドホルモン/服用例

膠原病が主体であったが全体として乳汁分泌は不良傾向であった。

C. 新生児因子と母乳分泌不全の関連に関する研究

昨年度に作成した調査表を用いて今年度は正常新生児を対象として、新生児側の諸因子の乳汁分泌に及ぼす影響を調査した。

(i) 児体重と乳汁分泌

2000～2500gと<2500gとの両者間で乳汁量の差は認められなかった。

(ii) 母児同室と乳汁分泌

終日母児同室>昼間のみ母児同室>母児異室の順で乳汁量が多い傾向を認めたが統計的有意な差には至らなかった。

(iii) 母児接触と乳汁分泌

分娩直後に乳頭を児に含ませると産褥5日間の乳汁量が増加する傾向がうかがえた。

(iv) 分娩形成と乳汁分泌

経膈分娩例を仰臥位と坐位分娩とに分類すると後者の乳汁量が有意に増加した。今後両者間の症例の詳細な分析が必要となるが分娩体位と乳汁量との関係は極めて興味深いものである。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



母乳哺育を推進普及する目的のために母乳分泌に関連すると推定される産科的諸因子,各種内分泌疾患および新生児側の諸要因などを取り上げ,母乳分泌との関連性を検討した。本年度の研究により乳汁分泌と密接に関連する諸因子が明白となり,今後の母乳指導と資すべき多くの新知見が得られた。